



当日のカワハギ仕掛け

・Tackle Guide
 カワハギのタックルや仕掛けは各自の好みなので自分の釣りスタイルにマッチしたものをセレクトすればいい。できれば竿は硬軟2タイプ用意しておく状況の変化に対応しやすい。

るのはエサを取ろうとしているカワハギをじらす誘い。その後にはビタツとゼロテンションにすると「今がチャンス」とばかりにカワハギがエサに飛びつく際に穂先にココンと明確な魚信が。「ほらっ出たでしょ」と実践指導。残念ながらこのときは合わせ損なつたが、その後にはアドバースどおりの誘いで20センチのカワハギを釣り上げたときには仲間からも歓声が上がり、「すごい。すごい」と小林さんは興奮を隠しきれない様子だった。

この感触が心地いい
 10分ほど移動して到着したのは葉山沖の水深47メートル。初めはポツリポツリの展開だったのだが次第にほどよい潮具合になるとダブルヒット、トリプルヒットと船内は活気づいてきた。「よしっ時合到来」とばかりにギアを上げたのは5人グループのリーダーである西條さんでポンポンとカワハギを連釣する。10時になったところで私も釣りに参加したのだが、直後に隣の席の網島さんがカワハギを釣り上げたので写真を撮っていると、私の置き竿がバタバタとたたかれる。なんと私のファーストヒット

トは置き竿に掛かった16センチのカワハギで複雑な気分だ。そのとき「ダブルが上がったよ」と言う船長の声で右舷トモに駆け付けると「やったね」と桑原さんが20センチクラスのカワハギをダブルで釣り上げており恵比寿顔。私も乗り遅れまいと仕掛けを誘い落としてたるませた後にジワジワと聞き上げるとカツカツと乾いた魚信が穂先を揺さぶった。竿を大きく頭上まで振り上げて合わせを入れるのと同時にリールを巻く。カンカンカんと手元に伝わる感触はなんとも心地よい。これですよ。この手応えと駆け引きがカワハギ釣りのだいたい味。続いて20センチ、22センチとカワハギを釣り上げたのだが、その後は潮が止まってしまい釣果は急降下。そんな渋い状況でもコンスタントに釣り続けたのは前田理恵さん。こちらはエサも取られない状態なのにポンポンとカワハギを釣り上げている。ユサユサと穂先を揺さぶってステイした後に聞き上げるといったスタンダードな釣り

●船宿information

三浦半島葉山あぶずり
秀吉丸
 ☎046-875-0859
 (詳細は巻末の情報欄参照)



栗飯原 貴海船長

▶料金=カワハギ乗合一人 9000円。
 付けエサ別途 1300円 (生と冷凍あり)
 ▶備考=出船7時、沖揚がり 14時ごろ。無料駐車場あり。
 ほかにアマダイ&タイ五目、ヒラメも出船

方だったが、真似をしても理恵さんのようににはヒットせず。当日の釣果は16、24センチが2、14枚で私は7枚。前田さんと西條さんがともに14枚で勝負は引き分けとなった。秀吉丸では1月一杯はカワハギ乗合を出すとのこと。ぜひ出かけていただきたい。



▲前田さんと西條さんが14枚の同数で竿頭



▲葉山沖のカワハギは深場の本格期へ突入

沖釣りの魅力は大きく分けて二つの要素がある。一つは新鮮でおいしい魚が食べられること。二つ目は魚とのやりとりや駆け引き。食味が優先するの釣りの味。が優先するの、その二つの要素の割合は魚種によって様々だと思ふ。ちなみに今回の取材対象であるカワハギは私的には3:7で釣りの味が勝る魚だ。しかし3だと言ってもこの時期のカワハギは肝も張って非常においしいのだが、それ以上にカワハギとのやりとりが楽しいのだ。エサ取り名人と呼ばれることからも分かるように一筋縄ではいかない魚なので、あの手この手を駆使してその日、その時間帯に適した攻略法を探し出す必要があり、それが

ハマって掛けられたときの喜びはひとしおだ。
40メートルダチがメイン
 そんなカワハギと勝負を12月9日に私が向かったのは三浦半島葉山あぶずりの秀吉丸。当日は西條さん率いる職場関係の5人グループと織茂さん親子を含む4人グループ、そして私の10人がカワハギとの挑戦者となって、7時に栗飯原船長の操舵で出船となる。今シーズンのカワハギの釣果は各エリアともおおむね順調と聞いているが、秀吉丸でも9月からカワハギ乗合を始め、開幕当初は江ノ島沖の浅場でワッペンサイズの小型中心にトップで40、50枚の釣果があったとのこと。現在は水温が低下したこと

●三浦半島葉山あぶずり発↓葉山沖
テクニカルな釣趣が楽しい！
葉山沖のカワハギ深場で安定

本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

から40メートルダチがメインスポットとなつていますが、平均サイズが手のひら級とサイズアップしており、20枚前後がこのところのトップの釣果となつている。「始めてください。水深は34メートルです。オモリは25号でお願いします」と開始の合図が出たのは航程10分ほどの港前のポイントだ。海底は砂地に所どころツブ根が点在しており、きつい根はないので根掛かりのリスクは少ないらしい。すると1投目から5人グループの紅一点、前田理恵さんにヒット。巻き上げ途中で時折カンカンと竿をたたくのはカワハギの特徴で、幸先よく18センチ級を抜き上げる。間を置かず左舷で竿を曲げたのは織茂さんの息子さんのほう。釣り上げたのは22センチの良型で、

「カワハギ釣りは初めてだったのでビデオを観てイメージトレーニングした方がいいありました」とニコリ。だが、急激な水温低下の影響もあってかカワハギがエサを吸い込む力が弱いのでチクチクとした魚信がきてもなかなかハリ掛かりしてくれない。とくに親子で参加している小林さんは沖釣りが初めてで「またエサがスッテンテンだ」とお手上げ状態。そこで竿の持ち方から一通りをレクチャー。底上2メートルから大きく、



▲ビギナーでも楽しめる

知得! 枝の交換
 ハリ先がなまったり、横向きになってしまった場合は枝を交換したほうがいい。このとき注意するのはハリ先が上を向くようにセットすること。ハリ先が横や下を向いているとハリ掛かり率が悪くなる。枝の交換の際は竿を船べりの穴に刺してオモリを股に挟むと幹糸がピンと張り枝交換が楽にできるのをお試しを。

ゆっくりと竿を揺さぶりながら誘い落とす。この動作はエサの存在をカワハギにアピールする誘い。そして着底したらチャッチャとたたきを入れ



●すずき よしかず / 出張帰りのお土産に今川焼や焼き芋。事務員たちの機嫌取りに定期的な餌付けは欠かせません。でもこれを読まれたらどうしよう。